



青葉台コミュニティハウス「本の家」

11月に貸出を開始した新着本



一般書

●寄贈 弁償本も含まれます。

タイトル	作者	出版社	分類
●裁判官も人である 良心と組織の狭間で	岩瀬達哉／著	講談社	32
息子のトリセツ	黒川伊保子／著	扶桑社	36
娘のトリセツ	黒川伊保子／著	小学館	36
Day to Day	講談社／編 相沢沙呼／ 〔ほか著〕	講談社	98
ペッパーズ・ゴースト	伊坂幸太郎／著	朝日新聞出版	93イ
さよならも言えないうちに	川口俊和／著	サンマーク出版	93カ
砂に埋もれる犬	桐野夏生／著	朝日新聞出版	93キ
チグリジアの雨	小林由香／〔著〕	角川春樹事務所	93コ
倒産続きの彼女	新川帆立／著	宝島社	93シ
境界線	中山七里／著	NHK出版	93ナ
夜が明ける	西加奈子／著	新潮社	93ニ
虚魚	新名智／著	KADOKAWA	93二
風は山から吹いている	額賀滯／著	二見書房	93ヌ
三千円の使いかた	原田ひ香／著	中央公論新社	93ハ
星を掬う	町田そのこ／著	中央公論新社	93マ
レインメーカー	真山仁／著	幻冬舎	93マ
ミカエルの鼓動	柚月裕子／著	文藝春秋	93ユ
らんたん	柚木麻子／著	小学館	93ユ
●横浜市営地下鉄各駅散歩	津田芳夫／著	230クラブ	Y29
☆☆☆☆ 以下文庫本となります ☆☆☆☆			
鬼を待つ 長編時代小説	あさのあつこ／著	光文社	93Bア
●破軍の星	北方謙三／著	集英社	93Bキ
陰の人 文庫書下ろし／長編時代小説 吉原裏同心 36	佐伯泰英／著	光文社	93Bサ
●脳男	首藤瓜於／著	講談社	93Bシ
●カフーを待ちわびて	原田マハ／著	宝島社	93Bハ

分類のAは新書、Bは文庫です



青葉台コミュニティハウス「本の家」

11月に貸出を開始した新着本



児童書

●寄贈・弁償本も含まれます。

タイトル	作者	出版社	分類
どっちが強い!? シャチVS(たい)シュモクザメ 恐怖!海の殺し屋対決	シノ/ストーリー ブラックイ ンクチーム/まんが 新野大/ 監修	KADOKAWA	48
西遊記 三蔵法師を守る、孫悟 空と仲間が大あばれ!	呉承恩/作 芝田勝茂 /編訳 脚次郎/絵	学研教育出版	98
銭天堂 心しぎ駄菓子屋 16	廣嶋玲子/作 j y a j y a/絵	偕成社	93-七
オバケちゃん	松谷みよ子/作 いとうひろし/絵	講談社	93-マ
崖の下の魔法使い	吉野万理子/作 宮尾和孝/絵	学研プラス	93-ヨ
火の鳥 6.7.8.9	手塚治虫/[著]	角川書店	J93テ
おしりたんてい	トルル/さく・え	ポプラ社	JE
ガムのようせい	笑い飯/作 川崎タカ オ/絵	岩崎書店	JE
こどものとも 年少版 でんしゃすきなのだーれ	岡本雄司	福音館	JE
こどものとも きたかぜさま	星野なおこ/文 羽尻利門/絵	福音館	JE
みんなおやすみ	かきもとこうぞう/え はせがわさとみ/ぶん	学研プラス	JE
ブタヤマさんたらブタヤマさん	長新太/さく	文研出版	JE
お化けの迷路 幽霊の学校をぬけて地獄の迷宮へ	香川元太郎/作・絵	PHP研究所	JE
無人島の迷路 冒険&脱出サバイバル!	香川元太郎/作・絵 香川志織/作・絵	PHP研究所	JE-L
物語の迷路 アンデルセンから宮沢賢治の世界まで	香川元太郎/作・絵	PHP研究所	JE-L
動物の迷路 ウサギ、コアラ、ライオン250種大集合!	香川元太郎/作・絵 成島悦雄/監修	PHP研究所	JE-L
昆虫の迷路 秘密の穴をとって虫の世界へ	香川元太郎/作・絵 小野展嗣/監修	PHP研究所	JE-L

分類のAは新書、Bは文庫です

読書週間特別企画「私のおすすめの1冊」

先々月から引き続き

青コミ職員・スタッフのおすすめの1冊をご紹介します!

「デス・ゾーン」

河野啓・著
集英社【コ】

栗城史多(くりきのぶかず)という登山家をご存知でしょうかSNSで登山の実況中継をし、「二十のアルピニスト」としてマスコミに持ち上げられ、エベレストを劇場に変えた青年。SNSで熱狂的に支持されたものの、次第に炎上するようになり最後は凍傷で手指9本を失い、エベレストで滑落死。彼は何者だったのか。渾身のドキュメンタリー!

「あめつちのうた」

朝倉 宏景・著
講談社【ア】

「甲子園の神整備」で知られる「阪神園芸」さんが舞台の小説です。雨と土と向き合って日本最高のグラウンドが生まれる。スポーツを支える裏方さん達の努力、苦勞、喜びが伝わります。

「ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー」
ブレディみかこ・著
新潮社【96】

英国で暮らす日本人の「かーちゃん」とアイルランド人の父親との間に生まれた息子。平和な名門カトリック小学校から一転地元の公立「元底辺中学校」に入学したことから、息子はさまざまな壁にぶちあたります。人種差別、貧富差別、ジェンダー。新しいジャージを買えずにぼろを着ていることをクラスメートにばかにされている友達に、中古のきれいなジャージをそっと渡したい。でもどうすれば友達を傷つけずに渡せるか。悩む母と子、答えが出ないうちにその時が訪れとっさに息子が言った一言が大人があれこれ考えるよりもずっとシンプルに壁を飛び越える力を秘めている。そんなことを感じさせてくれる本でした。